

会 議 録

1 会議名

平成 29 年度上越地域若年者自立支援ネットワーク会議

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 上越地域若者サポートステーション平成 28 年度事業報告について（公開）
- (2) 上越地域若者サポートステーション平成 29 年実施計画について（公開）
- (3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について（公開）

3 開催日時

平成 29 年 7 月 26 日（水）午後 2 時から午後 3 時 40 分まで

4 開催場所

上越市役所 401 会議室

5 傍聴人の数

2 人

6 非公開の理由

—

7 出席者氏名（傍聴人を除く。敬称略）

- ・会 員： 清水慎太郎、高橋利彦、佐藤大介、難波祐子、藤田健男、漆間和美、小林泰心、八木和彦、五十嵐透子、柳沢幸也、中村哲士、中浜千鶴、竹内隆志、宮崎研、小野孝、宮崎英紀
- ・事務局：上越市産業振興課 水澤副課長、金融・労働係 玉井係長、神林主事
上越地域若者サポートステーション 吉岡総括コーディネーター

8 発言の内容

議題(1) 上越地域若者サポートステーション平成 28 年度事業報告について

(事務局：吉岡統括)

上越地域若者サポートステーション平成 28 年度事業報告について、資料No.1 に基づき説明する。

- ・28 年度サポステの利用状況は、新規登録者数が 69 人、相談件数が 1,061 件、進路決定者数が 49 人である。
- ・出張相談会を上越市と糸魚川では毎月行い、妙高市ではひと月おきに行った。

(NPO 法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・上越のサポステの新規登録に占める女性の割合が 23% であり、全国の 40% に対して低い理由は、家庭で家事をしている女性が出てこないという理由もあるのか。

(事務局：吉岡統括)

- ・どの支援機関も男性の利用者が多く、就職となると在宅していてもどれくらい問題視しているかが男女で違うためだと考えている。

(上越教育大学：五十嵐会員)

- ・それだと全国的にも言えることであり、上越が低い理由ではないので、分析する必要があると考える。また、過去はどうだったのか。

(事務局：吉岡統括)

- ・過去の実績を見ると、平成 25 年度が 31%、26 年度が 35%、27 年度が 44%であり 28 年度が特に低かった。
- ・他団体の利用者の男女の割合はどのような状況か。

(障害者就業・生活支援センターさくら：難波会員)

- ・登録している在宅の人は 198 人で年齢は 18 から 80 歳まで、男性 134 人、女性は 64 人なので 30% くらいである。

(上越パーソナル・サポート・センター：漆間会員)

- ・男性の登録が多いが大きな差はなく、女性は 42~45% くらいであり、男女ともにそこまで困り感がなく、女性は婚姻関係、内縁関係にある人は特に困り感がなく、関係が終わった時に困り就職する。

(上越公共職業安定所：清水会員)

- ・ハローワークでは男女を分けて集計していないので、数等はわからないが、窓口に来るのは女性より男性の方が多いように感じる。

(上越公共職業安定所妙高出張所：高橋会員)

- ・窓口に来る若い人を見ると女性の方が困り感は少ない。男性より相談回数が少なく、条件的に折り合いがつかなければ応募はせず、自宅で待機して家事をするという人もいるので、そのあたりの差と感じている。

(糸魚川公共職業安定所：佐藤会員)

- ・ハローワーク糸魚川も同様であり、女性の社会進出が進んでいないということもあるかもしれないし、把握していない家事育児に従事している人もまだまだいるのかもしれない。

(事務局：吉岡統括)

- ・補足として平成 28 年度に就職した人の職種の傾向で一番多いのが製造業で 19 名、残りは販売、農業、介護、建設、サービスなどで一桁であり、対人がない職種に就職する人が多い。

議題(2) 上越地域若者サポートステーション平成 29 年実施計画について

上越地域若者サポートステーション平成 29 年実施計画について、資料No.2 に基づき説明する。

(事務局・吉岡統括)

- ・29 年度サポステの利用状況は、6 月末現在で新規登録者数が 15 人、相談件数が 335 件、進路決定者数が 7 人である。
- ・出張相談会を糸魚川市では毎月行い、上越市、妙高市ではひと月おきに行う予定である。

(NPO法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・29年度の実施計画の目標値で、利用者満足度90%以上とあるが、就職率は60%としており、就職できなくても満足してもらえればよいということか。

(事務局：吉岡統括)

- ・利用者満足度は厚生労働省が作成したフォーマットを用いて、全国のサポステで就職した人に対して実施するアンケートを用いており、利用者に行っているものではない。

(NPO法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・糸魚川で9人、妙高で5人が就職しているのはそれぞれのハローワークと連携して、出張相談会を開催している効果が出ているのか。

(事務局：吉岡統括)

- ・糸魚川市は特に遠いので、上越まで来ることが難しい人にも出張相談会に来てもらえるよう、ハローワークにも周知等協力してもらっており、効果が出ていると考えている。

(NPO法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・上越のサポステのサテライトを妙高や糸魚川に置いて地元の人を配置できれば新規の登録者が増えてくるのではないかと思うが、予算の関係もあり難しいと考えるので提案だけとさせてもらう。

議題(3) 上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について

(事務局：吉岡統括)

上越地域若者サポートステーションと関係機関の今後の連携について、資料No.3に基づき説明する。

- ・当会議の下部組織として実務者会議を開催している。
- ・今後も関係団体とも連携し、上越地域全体での連携を図っていきたい。

(上越公共職業安定所：清水会員)

- ・サポステ出張相談の受け入れや該当になりそうな人へ窓口で周知を行っており、今後も継続していきたい。それ以上の連携については、必要に応じて相談してもらいたい。例えば、若くして職歴が無く家に引きこもっていた人が相談に来た際は、サポステのパンフレットを渡している。サポステの利用を躊躇している人がいれば、若者しごと館を案内しており、状況に応じてその後サポステへの誘導をお願いしている。

(上越公共職業安定所妙高出張所：高橋会員)

- ・相談者にはハローワークで出来ることを説明し、就職する準備が整っていない人に仕事は紹介できないので、履歴書の書き方等の話をしている。だが、就業意欲が薄いか、個人的な特性があって就業に結び付かない、就職するためのテクニックが無い人はサポステに行って頑張ってもらいたい。踏み込んだ話をすると「あなたはダメだからサポステに行きなさい」と捉えられかねない。
- ・サポステでメンタルや生活面の相談もできると話しても、本人が困ってなければ、行かなくてもいいと言われてしまうので、ハローワークからの送り出しは難しいと思う。チラシの配布や口頭での説明はしているが、サポステで行っている内容が伝わるような手作り感のあるリーフレットがあると、チラシと併せて渡せると思う。強制的にサポステに行けとは言えないので、相談者が、ハローワークとは別の立ち位置であるサポステから説明を聞いてもいいと思わせるものがあると話がしやすい。

(上越教育大学：五十嵐会員)

- ・話を聞いていると、橋渡しが大変だと感じたので、ワンストップで相談できるように開催している出張相談会の場を活用してもらえないのか。

(上越公共職業安定所妙高出張所：高橋会員)

- ・出張相談会を案内し、ハローワークとは別のスタッフが来るので相談してみてもどうかと勧めているが、相談者が利用しようという段階にならない。就職準備が整っていない相談者であっても、職業選択の自由があるので、「応募してはいけない」などとは言えない。しかし、不採用になるのは目に見えているので、「今すぐ応募するのではなく、準備を整えるツールのひとつとして、ハローワークではテクニカルな支援もできるしメンタル面、ライフスタイルの再構築などはサポステで相談に乗ってもらって、見直したらどうか」などという話はしている。そのため、その話に合わせて出張相談会も勧めるが、なかなか参加すると言ってもらえない。

(糸魚川公共職業安定所：佐藤会員)

- ・昨年から糸魚川市で開催しているハローワークを会場にした出張相談会により、就職につながる人が増えてきている。昨年1年間の出張相談会の枠はほぼ埋まっていたが、ハローワークの利用者が少なくなってきたこともあり、ここ何カ月かは全部埋まらない状況が続いているので、引き続き周知し、サポステの利用勧奨も積極的に行っていく。

(障害者就業・生活支援センターさくら：難波会員)

- ・今年度から上越市の委託事業としてジョブサポーター事業を受託した。当センターに登録している在宅の人を掘り起して、就労の可能性のある人を就労に繋げていこうというのが、この事業の大きな目的である。私たちは障害のある人を担当しているので、就業準備が整っていない人については福祉事業所を案内している。しかし、中には障害の認識が無く、福祉事業所に行きたくないという人もいるが、そのままハローワークへ行くことになって困ると思われる人も大勢いるので、その様な人がサポステの事業へ繋がっていければ良いと思う。逆に、サポステ利用者で障害者手帳に該当しそうな人がいたら連携して一緒に動きたいと思う。

(NPO法人えちご若者元気塾：藤田会員)

- ・特に引きこもりの支援をしており、5年前からサポステと連携している。何年も家に引きこもっていた若者がやってきて、喋れない、車の免許も無いという状態から、若者同士で話し合うことで刺激を受けて、男性1名、女性1名が運転免許を取得した。一緒に食事を作って食べるということを主に行っており、他の若者と一緒に食事や皿洗い、部屋の掃除などから行い、力が付いたら、サポステに繋ぐということを行っている。

(上越パーソナル・サポート・センター：漆間会員)

- ・事業の中では、在学中の人の就労支援は禁じられているので、その様な人にはサポステを紹介できればと思う。

(事務局：吉岡統括)

- ・少し補足すると、在学中の生徒はサポステの支援対象になっておらず、定時制や通信制高校などの生徒に対しても変わりがない。ただし、公式の文書ではないが、厚労省の意見として、「定時制や通信制高校などに在籍しているが、学校に通っている実体のない人、経済的な理由から就業の切迫性が高い人に限り、サポステ・本人・学校側で了解した場合は、サポステの対象として登録を行う事を妨げない」という回りくどい表現で支援を行っても構わないという解釈もあるが、在

学生全般を支援できるということではない。

(上越商工会連絡協議会：八木会員)

- ・商工会の会員は、個人経営者や小規模事業者が多く、このようなネットワーク支援の情報は知らないで、会員に周知し、どれだけ受け皿ができるか進めていきたい。

(上越教育大学：五十嵐会員)

- ・サポステの利用数が大きく減り、今年度の目標達成が難しいのではないかとこの事なので、増やしていくために、利用率が低い女性のポテンシャルは大きいのではないかと。パーソナル・サポート・センターは利用者の男女比が同じくらいとの事であるし、サポステ利用者の女性割合が全国平均よりも低い理由がはっきりできる術があると良い。
- ・秋田と静岡で非常に効果が出ている「静岡方式」という、若者と一緒に活動し就労に繋げていく方法を学ぶ講演会を上越市でも11月2日に開催する。しかし、この「伴走型」が適しているものなのか、サポステ利用者の中には、知り合いに会わないようになるべく外出しない人もおり、地域性から考えて、どのようにサポートしていけばよいかということも課題である。
- ・人は自分に関係が無いことについては、目の前に情報があっても全く注意を向けないので、サポステについて広報活動も色々としているが、知れ渡らなかった。まだまだ事業を周知する余地が残っていると考えさせられる機会が何度かあったので、皆さんから協力してもらい、上越地区にこのようなサービスがある事を広めていけたらよい。

(新潟県高等学校長会：柳沢会員)

- ・利用者数の減少が話題だが、我々の感覚だと、利用者が少ないほうが健全であると思う。潜在的な需要に対してどの程度利用があるか、適切な数値の把握が一番大事だと思う。高校によって様々な事情はあると思うが、出来るだけ無業者にならないように指導して、卒業させたいというのが我々の理想である。就職が決まり卒業した生徒が、その後離職をしても期間が過ぎると高校は把握していない。データベースが無く、潜在的な需要に対してどの程度ポテンシャルがあるのか、分からないまま議論していてもなかなか上手くいかないのではないかと。
- ・同じような会議が教育委員会主催でも行われているので、そちらが持っている情報と、今日の参加者が持っている情報をマッチングさせるような取組みは、行政でしかできないので、それをまずやってもらいたい。我々は広報することはできるが、情報のマッチングが無ければ、果たしてどの程度効果が上がっているのか分からないと思う。
- ・出来るだけ生徒が無業者にならないようにするのが、学校の目的であるが、一番サポステ等にお世話になる可能性が高いのが本校の生徒である。特に、通信制にそういう生徒がかなりいるので、連携させてもらいたいと思う。

(新潟県上越地域振興局健康福祉環境部：中村会員)

- ・直接的な連携は中々難しいと思うが、業務上繋がりのある機関へサポステの活動をPRや紹介をしていくことは可能だと思う。各機関間でやるデータの照合については、健康福祉環境部の保健所でデータがあると思うので参照してほしい。

(新潟県産業労働観光部労政雇用課：中浜会員)

- ・県として、いまいくつか話が出た中で、確認したいことがある。

- ・一つ目は、在学中の学生はサポステの支援対象外であるということだが、在学中に周知していきかないと思う。ここ5年程、毎年、若者のための労働ハンドブックというものを作成しており、ハローワーク、市町村、大学などに設置してもらっている。労働教育と併せて、サポステの存在を周知していきたいので、高校生に渡しても全てを読んで把握する事は無いかもしれないが、無業者になり、次にまた就職しようという気持ちになった時に、すこし背中を後押ししてくれるような人たちが居るという思いで、利用してもらえればと考えている。
- ・二つ目は、連携という部分でサポステの周知不足という話について、他地域のネットワーク会議でも周知がウィークポイントになっているという話を聞いている。県の立場としては、県内に5つあるサポステと協力して周知の部分を強化していく必要があると考えている。
- ・三つ目は、商工団体の事務局長にお願いしたいことがある。平成29年の4月から、若年無業者職場実習受入促進奨励金というものを創設して、今まで障害者の職場実習の受入の奨励金はあったが、今回若年無業者に対しても、サポステの受託団体が事業所に協力費を支払った時には、県がバックアップするというものを作ったので、是非活用してほしい。

(新潟県上越地域振興局企画振興部労政課：竹内会員)

- ・労働相談をしており、既に就業している人からの労働に係る色々な相談が殆どを占めている。サポステとの協力についてはこれまでもそうだが、対象の人がいれば紹介したいと思っている。

(新潟県上越地域振興局企画振興部労政課：宮崎会員)

- ・昨年の労働相談では、サポステを紹介した事例は無かった。サポステの支援対象が15歳から39歳だが、それよりも上のフリーターや職を探している人からは何度か相談を受けている。
- ・先ほど11月2日の「静岡方式でいこう」という講演会が紹介されたが、これは上越地域振興局も主催者であるので、周知等協力していきたい。

(糸魚川市産業部商工農林水産課企業支援室：小野会員)

- ・平成28年度の状況を見ると、糸魚川の利用者も就労に結び付いており、非常に心強く思った。平成25年頃「出張相談会は良い取組だが、糸魚川は遠いのでどうか」と思っていたが、ハローワークから毎月会場を借りて連携している効果が表れていると思う。サポステの利用については、企業訪問業務において支援情報を提供する中で話をすると、「そんなものがあつたのか」という反応が返ってくる。まだまだこの様な支援機関があることを知らない人も多いので、当人の就労関係のセクションだけでなく、全庁的に「サポステというものがある」ということを啓発していきたい。公民館など、市民の目に触れる部分などに、ポスターやパンフレットを配備したい。

9 問合せ先

産業観光部産業振興課金融・労働係 TEL：025-526-5111（内線1266）

E-mail：sangyou@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。